



武蔵みたけ

第四十七号

御族抄

宮司 須崎 裕

平成二十九年の輝かしい初春を迎え、御皇室の弥栄と世界の平和をお祈りし、併せて講中を始め崇敬者各位のご健勝とご発展をご祈念申し上げますと共に、平素のご厚情に心より感謝を申し上げます。

さて本年は、酉年式年大祭の佳節を迎えることとなりました。記念事業として、平成二十七年七月一日より進めて参りました社殿の彩色漆塗り替工事も一年五ヶ月の歳月をかけ、昨年の十一月二十二日に全て完了することが出来ました。これもご協賛賜りました講中・崇敬者各位をはじめ、工事関係者のご支援・ご協力によるものと深く敬意と感謝を表する次第であります。また工事の期間中は、ご参拝の皆様には大変なご不便ご迷惑をお掛けしましたこと、誠に申し訳なく心よりお詫言ひ申し上げます。

三月二十六日には、完成した彩色鮮やかな社殿に関係各位をお招きして、竣工祭を斎行し、四月一日より五月三十一日までの二ヶ月間、式年大祭（御開帳）を執り行つて参ります。

酉年は西の方位に位置し、運氣を取り（酉）込む金運の方位に当たることから、古来より、十二年に一度御神像として内陣に鎮まり普段は決して拝観することの出来ない蔵王権現像を外陣にお移し申し上げ、期間中多くの参拝者の方々にお姿を現し、示威を輝かせ給ひて、尊きご神徳を授けていただけた特別の年でございます。これに併せて、式年祭期間中「命柱」を建立し、御神像より結ばれた紐をとおして直接神様に触れ合うことの出来る触拝所を設置したり、樹齢四百年余の檜の御神木にて蔵王権現像を彫つたお守りの作成や特別な御朱印を配布するなど、種々な計画を致しております。また各地に伝わる郷土芸能のご奉納もお願い申し上げます。

申し上げて居るところでございます。

この式年大祭が盛大に斎行されますよう、神職一同、鋭意努力を致して参る所存でございますので、どうぞこの機会に、多勢の皆様のご参拝をお待ち申し上げます。

最後になりますが、皆様方の益々のご多幸ご繁栄をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

平成二十九年二月

武蔵御嶽神社

宮司 須崎 裕



御嶽蔵王権現 御出御

平成二十九年
が明け、早くも
春を迎え十二年
に一度の酉年式
年大祭を迎える
事となりました。

四月一日より

毎日祭（御嶽蔵王権現像ご拝観）執行のため、御本殿奥に鎮まります御神像にお出まし頂くため、三月八日早旦、「御嶽蔵王権現出御祭」が斎行されました。

宮司、祭員は前日より斎宿に籠り、精進潔斎を行い神事に臨みました。祭典の早旦は前日の曇天が嘘のように消え、晴々とし、凜とした空気の中つつがなく祭典を執り行う事が叶いました。

毎日祭執行中は、御参拝の皆様をより近くでお待ちしております。期間となります。ご本殿側には、大地に鎮座される神々の様に勇壮かつ麗らかな命柱を建立し、触拝参拝所を設けました。

式年とは年月を定め、その節目毎に「再生」や「誕生」を繰り返すという神道の理念の一つとなる大切な行事です。御本社や境内地の生まれ変わりで無く、祭事に携わる神主、各種記念事業にお力添えを賜りました講中・関係機関の方々、御参拝くださる崇敬者の皆様、すべての皆様御嶽神社の式年大祭を通じて、新たな自身への生まれ変わりを感じていただけたらと思います。





十二年に一度の酉年に行われる式年大祭。以前からこの大祭に對しての御嶽神社の方々の思いや意気込みを見受けており、約五年前から御嶽山を撮り始めた私にとつては初となるため、この二〇一七年の春を待ち遠しく思つておりました。

そのような折、御嶽神社から一通のメールが届きました。その内容は、式年大祭毎日祭が始まる四月からの二ヶ月間、祭典風景や春の社殿のようす等、御嶽山を良く理解している私にしか撮ることができない写真を撮つて欲しいとのことでした。

長年、御嶽山に通い撮影をしてきた私にとつては、とても有り難い言葉が。いまは、そんな大役を仰せつかり、嬉しい気持ちと同時に、心地よい緊張感に包まれております。

大切な式年大祭のもようや、二〇一七年の春の御嶽山を心を込めて写真に収めようと思ひます。

(写真・文 鶴巻 育子)

大口真神社裏の遙拝所から見る男具那の峰。陽が傾きかけたころは、逆光の光により淡い色のシルエットに。木々の向こうにぼんやりと浮かぶ姿を拝むと心が落ち着きます。

● ● ● 講中を訪ねて ● ● ●

朝霞市 広沢講中 講元 芳野 浅嗣

朝霞市の広沢講中は、埼玉県の南部に位置し東京に隣接しております。天野御師様の講中は全部が東京であり、なぜか広沢講中は埼玉の唯一の講中だと聞いています。

私は祖父に代わり、四十年前より講元を務めさせていただいております。明治九年の御師様の記録では、三十七名の名簿が連名にて「岡村講中」と記されており、私達の四代前の先祖の名前が書かれてありました。広沢講中が同じ村で当時一緒であったことがわかりました。そして時代の変化により、いつしか広沢講中だけが残りまして、現在十四軒だけとなっております。

小さい講中ではありますが信仰する心は強く、毎年若芽が萌え美しい大自然をいただく御嶽神社の登山を、四月二十九日（昭和の日）に十四・十五名で行っております。

登山の途中では由緒ある御嶽神社奉納の剣道大会を見学しながらの登山を楽しみにしております。登山参拝後の御師様での直会、心のこもった手造りのごちそうを戴くと、登山の疲れも吹っ飛んでしまいます。

そして平成十二年の登山の折、御師様の内神殿で祈祷の時、古い太鼓に墨で太文字で書かれたかすかに読める文字の発見をしました。そこには、「告 慶應三丁卯二月上流 武州新座郡 岡村且中」と記されてありました。あの幕末の激動の時代に寄贈した太鼓とわかり皆、大変な感激を致しました。早速太鼓を張り替え奉納いたしました。

平成十九年十月には、参道の石段を奉納させて頂きました。御師様と私は同い年、講中の人達も同年代の人が多く、意気投合して一泊旅行を何度も行っており、これからも続けたいと願っております。最後に、私達が信仰するお山、御嶽神社と天野御師様のご繁栄をお祈り申し上げます。



2007. 10月21日 御嶽神社 階段奉納記念 広沢講中



主幹 宮司 天野 光紘
所在地 埼玉県朝霞市
講員数 14名

修行体験講座

十二年毎の式年大祭、霊山御嶽山の御稜威もより深くなる年を迎え、「再生」「誕生」「転生」を強く感じていただけの事と思います。神道行法は、己と向き合い、強靱な精神を養うだけでなく心身に共に癒され新たな自分と出会う機会となるでしょう。是非ご参加下さい。

一日修行体験講座

日 時 六月二十五日（日）
開催人員 三十名まで
費用 一万円（申込金・五千円）

滝行体験講座

日 時 七月十七日（月）午後一時集合
費用 五千円（申込時全額振込）

修行体験講座

日 時 九月三十日（土）～十月一日（日）
費用 一万五千五百円（申込金・五千五百円）

おめでとうございます



神様と崇敬者の方が共に楽しみ、敬神の念を深める「巫女舞」青年期の女性だけでなく、少女期の巫女舞もとても可愛らしく神事に花を添えます。当社神主のお子さんたちも、熱心に舞の習得に向け研鑽を積んでおり、本年度は小学五年生の児童、金井友香さん・片柳麻紀さん・原島夏祝さん・久保田梅さんの四名が東京都教育委員会より「伝統・文化の継承活動を継続的に実践した生徒」として表彰を受けました。子供たちの受賞は継続の力にもなり、神社としても大変栄誉な事であります。日々努力する子供たちと、六歳の女兒から青年の女性まで幅広く講義をしてくださいます天野宣子講師にも深く感謝いたします。



第四十四回 武蔵御嶽神社奉納俳句入選作品

応募総数 四百三十五句

選者 岡田日郎

特選

一席 聳えたる鳥居をくぐり初詣 昭島市 宮腰秀子
 二席 むささびの千年櫓に顔を出す 所沢市 遠藤タカ子
 三席 鶯の絶えずどこかに御師の里 中野区 辰巳行雄
 四席 頂きの岩に根を張り白やしほ 青梅市 津布久信雄
 五席 むささびの棲むてふ櫓風花す 蔵市 千家妙子

秀逸

雲海の日の出を拝し御師の宿 多摩市 立川明朗
 小鳥来る住き日の庭に蒲団干す 青梅市 原島康典
 山宮の階に枝張り冬桜 藤沢市 乗田真紀子
 玉堂の泊まりし宿や山桜 大和市 木林優子
 御師の宿切り干し大根広げあり さいたま市 土肥寛子
 木の茅風崖にせり出す茶店かな 松戸市 林民江
 ひぐらしの山ひぐらしの小径かな 日の出町 渡邊敏雄
 拝殿へ一段ごとの蟬時雨 多摩市 橋本 絢
 ケーブルカー待つ間に霧の深まりぬ 文京区 上部隆男
 長雨の上がり参道赤のまま 羽村市 小沢弘子
 土産屋に山葵並ぶや御岳山 中野区 中村誓子
 秋の蝶香炉の煙ぬけにけり 志木市 新宅待春
 御岳山会ふ人もなし時鳥 国立市 服部直紀
 再会に少し老いたり流行者 練馬区 結城節子
 神木の千万本の良夜かな 新島村 曾根新五郎
 初春や朱塗りの宮乃大太鼓 青梅市 馬場克巳
 サイダー飲み外国の人宮参り 相模原市 関 迪子
 新涼や薬草風呂の大袋 横浜市長濱 藤樹
 初日の出参道中ば一服す 昭島市 座間康臣
 邯鄲の声止みて雨溪に来る 羽村市 杉原功一郎

選者 吟 講宿に頬白来鳴き山日和

奉納俳句選評

特選一席

聳えたる鳥居をくぐり初詣 宮腰秀子
 御嶽神社の本殿まで「鳥居」はいくつあるのだろうか。立派な大「鳥居」もある。実景に即して「初詣」の季節とみごとに合致した。

特選二席

むささびの千年櫓に顔を出す 遠藤タカ子
 「千年櫓」と呼ばれる古木は、御嶽神社のシンボルの一つであらう。「むささび」やりすの住み処でもある。俳句では冬の季節であり、日暮れころになると巣穴から「顔を出す」こともある。

特選四席

頂きの岩に根を張り白やしほ 津布久信雄
 「白やしほ」は白八汐つつじのこと。たしか奥社の「岩に根を張り」晩春にはみことな白花が咲く。白花はこのほかきよらかな趣があるといっている。

特選五席

むささびの棲むてふ櫓風花す 千家妙子
 「花風」は冬の青空にちらつき「むささび」の「棲む」地上の千年「櫓」の回りにもちらちらと舞う。余分な語がなく要点を印象鮮明に表現して成功した。

特選三席

鶯の絶えずどこかに御師の里 辰巳行雄
 神社や講宿の近くでは春から夏にかけて「鶯」がよく鳴く。山中に餌となる昆虫などが豊富にあるからであらう。「鶯」は駒鳥・大瑠璃とともに日本三銘鳥の王者である。

第四十五回

奉納俳句募集要項

- 一、作品は未発表に限る
 - 一、受付は指定用紙にて投句箱へとする
（郵送等直接の受付は致しません）
 - 一、締切り 平成三十年一月十五日
 - 一、発表 平成三十年三月中旬
- 四季を通じ「御岳山を題材」とした俳句を募集しております。
 大勢の方の投句をお待ちしております。

お ち お
 田 日 郎
 昭和七年十一月三日生まれ。
 福田蓼汀（りょうてい）の「山火（やまび）」に投句し、昭和二十六年から編集を担当。蓼汀没後の平成二年主宰となる。山と自然を称える山岳俳句を多く詠み、五年「連嶺」で俳人協会賞。東京出身。学習院大卒。本名は晃。著作に「山の俳句歳時記」など。

三万四以上

練馬区	北原 豊田裕義
練馬区	北原 豊田孔弘
練馬区	北原 本橋秀勇
練馬区	北原 今井孝一
練馬区	北原 豊田勝良
練馬区	北原 豊田昭夫
所沢市	池田 稔
西東京市	平井 繁
西東京市	下谷 香織
西東京市	岩崎将大
西東京市	野口 昌平
西東京市	保谷 勝俊
西東京市	森田 隆男
あきる野市	森田 和雄
相模原市緑区	下中村謙中
所沢市	森田 正隆
調布市	新井 市郎
あきる野市	上野 厚子
あきる野市	西ヶ谷戸五人衆講中
所沢市	諸星 逸夫
多摩市	寺澤利男
所沢市	森田 清一
北区	高桑 孝之
立川市	村野公彦
昭島市	白石 こつえ
青梅市	有限会社 鈴木貞男工務店
八王子市	代表取締役 鈴木 安彦
山下 明良	
一万円以上	
葛飾区	小村 高平
羽村市	渡邊 真理
練馬区	田上 勇
足柄上郡山北町	加藤 裕美
武蔵村山市	有限会社 サンベアー
	代表取締役 進藤 喜一
川崎市	竹元 裕美
前橋市	佐藤 仲策
川越市	岡戸自動車
入間市	森田 順一
飯島 康典	飯島 繁文

一万円以上

稲城市	内田敏雄
北海道宗谷郡猿払村	清水 泰
さいたま市大宮区	深井 明
秦野市	長谷川和由
川越市	岩澤幹元
川口市	濱中満江
川口市	椎橋清治
川越市	小池昭二
柏市	増田 賢
練馬区	南田中 谷治伸紘
練馬区	南田中 榎本重和
東松山市	鈴木伸夫
羽村市	渡邊 雄人
国分寺市	渡邊 達夫
練馬区	井之口 喜實夫
八丈島八丈町	篠崎 久
さいたま市	伊藤 美幸
武蔵村山市	三橋 みゆき
武蔵村山市	三橋 鉄雄
大田区	中山勝彦
船橋市	志村 義和
横浜市鶴見区	横溝雄一郎
国立市	羽場 左近
新宿区	村松 裕
杉並区	土岐 泰子
品川区	竹川 郁子
小金井市	本橋 隆
あきる野市	桐生 光夫
国立市	柴田 守博
相模原市中央区	金子 信男
さいたま市南区	那須 洋紀
大田区	野呂田 伸悦
板橋区	佐生 尚子
足立区	川名 善郎
さいたま市岩槻区	齋田 清
ふじみ野市	中村 浩義
越谷市	倉重 美喜
八王子市	川村 元昭
世田谷区	高橋 朋也
青梅市	中村 充
鶴ヶ島市	津村 治

奉納・營繕資金（二万円以上・敬称略）

平成二十八年九月一日

平成二十九年一月三十一日

一
万
円
以
上

山梨県代郡市川三郷町
市川市
西多摩郡奥多摩町
青梅市
西多摩郡奥多摩町
青梅市
西多摩郡奥多摩町
佐久間建設株式会社
代表取締役佐久間 一三
株式会社 清水製作所
代表取締役 清水浩久
練馬区
東海市 守
有限会社 丸井紙店
不二会 奥井恵子
樋口タマ
瀧 柱郎
東村山市
小町 幸生
有限会社 小町建築設計事務所

太々神楽奏上

近年太々神楽奏上が少なくなつて
おります。太々神楽はどなたでも
奏上いただくことが出来ます。

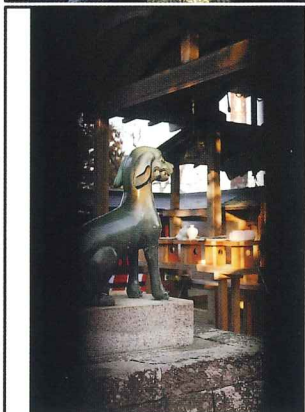
今年は酉年式年大祭を迎え、盛大
に祭典が斎行されます。是非、太々
神楽を奏上されますよう、皆様のお
申込をお待ち申し上げます。



祭の出の日

5月7日 宵宮 午後8時
5月8日 本祭・行列出発 午前10時
供奉料 三千元・五千元・一万元以上

※詳しくは神社へお問い合わせ下さい。



神社の杜（四十八）

「太占（ふとまじ）」

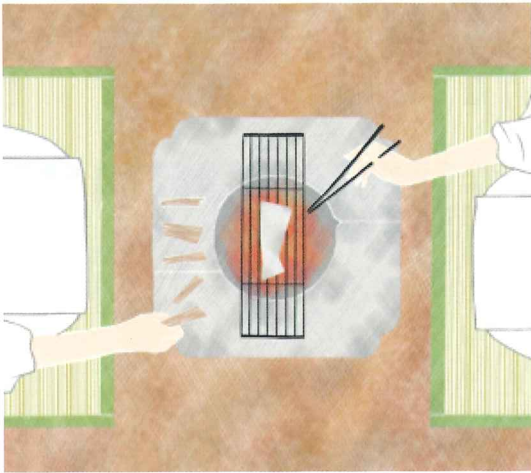
（その一）

片柳 茂生

春は寒暖の差多く遅霜に注意、梅雨明けは遅く、台風も多い。秋の長雨と気温低下に注意が必要。曰く本年の卦は、一見大凶作のように見えるが、実際はそれほど悪くないであろうとのことです。これは今年の太占祭での結果をみて、神社総代のお一人が出した二九年の気象の予想です。

此の鹿の肩甲骨を焼いて、作物の吉凶を占う太占祭は、正月の三日の早朝行われます。そしてこのお祭りだけは、一般の参拝者には非公開となっています。今回は、この太占祭を紙面で皆さんに公開してしましましょう。でも後で宮司からクレームがつくかも……。

まずこの太占祭に関わる神職は、宮司を筆頭に



イラスト：紺野美織

祭員五名、ほかに伶人三名、典儀一名の都合九名に神職の参列者が加わるという以外に大所帯で行われます。宮司はじめ祭員の五名は、お祭前日の二日の夜神社に集まります。そしてお祭りの準備が始まります。

占いに使用する品物の中で一番大事な物、それは雄鹿の右の肩甲骨。これが無いとお祭りが成り立ちません。骨は夏に猟師さんから奉納されたものを水に浸け、半年間社務所の裏の手摺から吊るしておきます。何故かという骨に着いた肉をすべて落とすためにです。骨が綺麗になったらそれを乾かし、少し出っ張った部分を削り落として準備完了。次に薪三束、バーベキューをするような薪ではありません。もつと細くて短いもので、三方に乗る程度の量です。昔は薪の材料に波波迦（ウワミズクラ）の木を使ったと古文書等にはありますが、今では御神木の杉を細く割って使っています。そして算盤（そろばん）。これは神前にお供えはしますが、実際に使っているところを見たことはありません。と、これで品物は揃いましたが、まだまだ準備は続きます。

火鑪具を使って火を熾（も）します。マッチやライター、ましてやガスコンロなんかで炭を熾すようなことはしません。昔通りのやり方で火を熾します。その前に火鉢にわらを燃やして灰を作っておくことを忘れてはいけません。せっかく熾した火を炭に移し、それをお祭りの時まで消さないようにするためにです。

もう一つやっておかねばならないことがあります。骨の形を半紙に写し、骨の中心から放射状に二五本の線を引きます。そして紙縋りも二十五本作り、どの線が何の作物か籤（くじ）を引いて決めるのです。火を熾すのは若い神主の仕事、こちらは偉い神主さんもお仕事と役割が決まっているようです。

おっと、長話をしていたら、前日の準備で今回は終わってしまいました。お祭り本番は次号で。

表紙写真

「武蔵御嶽神社」

平成二十九年の春、美しく鮮やかな社殿に、清々しく彩りを添えた青い空。美しく清らかな世界であることを祈ります。

撮影：TOKYO Eagle Eye

あとがき

本紙中に於いて「再生」「誕生」という言葉を数回使わせていただきましたが、それは式年に限るわけではございません。日々の生活の中でも、「再生」や「誕生」を繰り返して人は生きていけるものだと思います。そして、生活環境の見直しや、被災地などの復興という「再生」や「誕生」も忘れてはいけません。

式年大祭という行事が、「再生」「誕生」への気づきの一端となれば幸いです。

奉納俳句選者岡田日郎先生、朝霞市広沢講中 講元芳野浅嗣様、フォトグラフィアー鶴巻育子様、片柳茂生様、玉稿をありがとうございました。

平成二十九年 三月三十一日発行

（年二回発行・非売品）

編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四二八（七八）八五〇〇

FAX 〇四二八（七八）九七四一

<http://www.musashimatakejinja.jp/>

印刷（株）成和印刷